



飼料イネ収穫の適否は籾黄化率または葉色値で判定できる

研究のねらい

飼料イネの刈取と梱包を同時に行うダイレクトカット収穫の場合、発酵品質の安定した稲発酵粗飼料（WC S）を得るためには、収穫時における地上部の水分含量を適切な範囲にしなければならない。そこで、未熟な家畜ふん堆肥の多施用等による飼料イネの多窒素栽培を対象に、登熟期の水分含量の変動を明らかにし、収穫可否の判断基準を提案する。

成果の内容

- ① 家畜ふん堆肥や窒素肥料の施用条件を変えて飼料イネを栽培した場合、窒素吸収量が多い条件では水分含量が高く推移する（図1）。
- ② 稲発酵粗飼料のダイレクトカット収穫に適した飼料イネの水分含量は65%であり、そこまで低下するのに必要な出穂期以降の積算気温は、窒素吸収量の増加に伴い高くなる（図2）。窒素吸収量1kg/10a増加につき積算気温が約25℃増加となるので、収穫可能日は約1日遅くなると推測される。
- ③ 多窒素栽培を含む栽培条件でも、籾黄化率60%以上、あるいは籾黄化率が60%以下でも止め葉の葉色値（SPAD値）が33以下であれば、ダイレクトカット収穫調製が可能である（図3）。

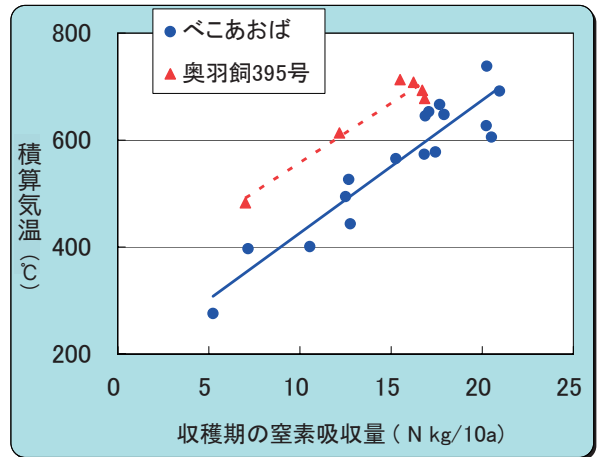


図2 飼料イネの窒素吸収量(収穫期)と出穂から水分含量が65%に低下するまでの積算気温の関係

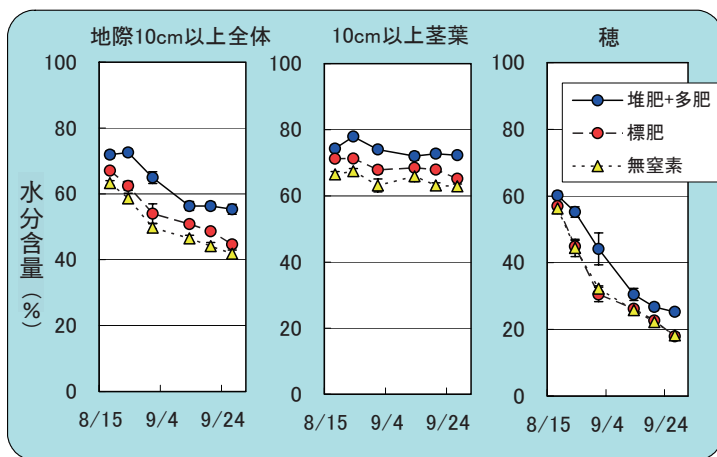


図1 飼料イネの登熟期の水分含量の推移の一例

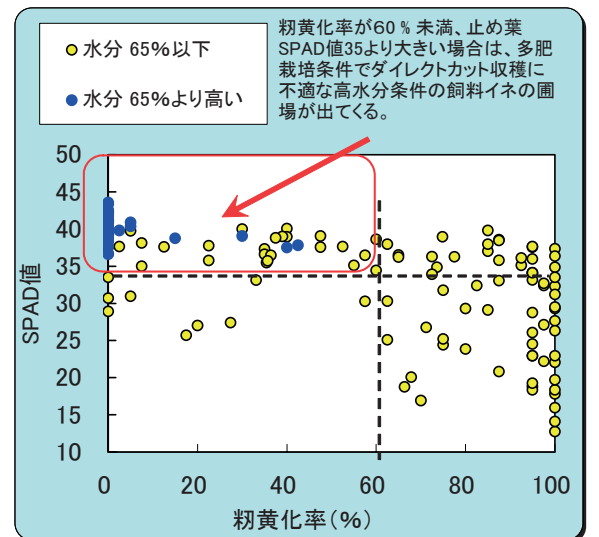


図3 飼料イネの籾黄化率と止め葉葉色値の関係

成果の利活用

- ① この成果は、窒素多施用圃場における稲発酵粗飼料の収穫の判断に利用できる。
- ② 特に、籾黄化率が低い早期に収穫する場合はSPAD値による判定が有効である（図3）。